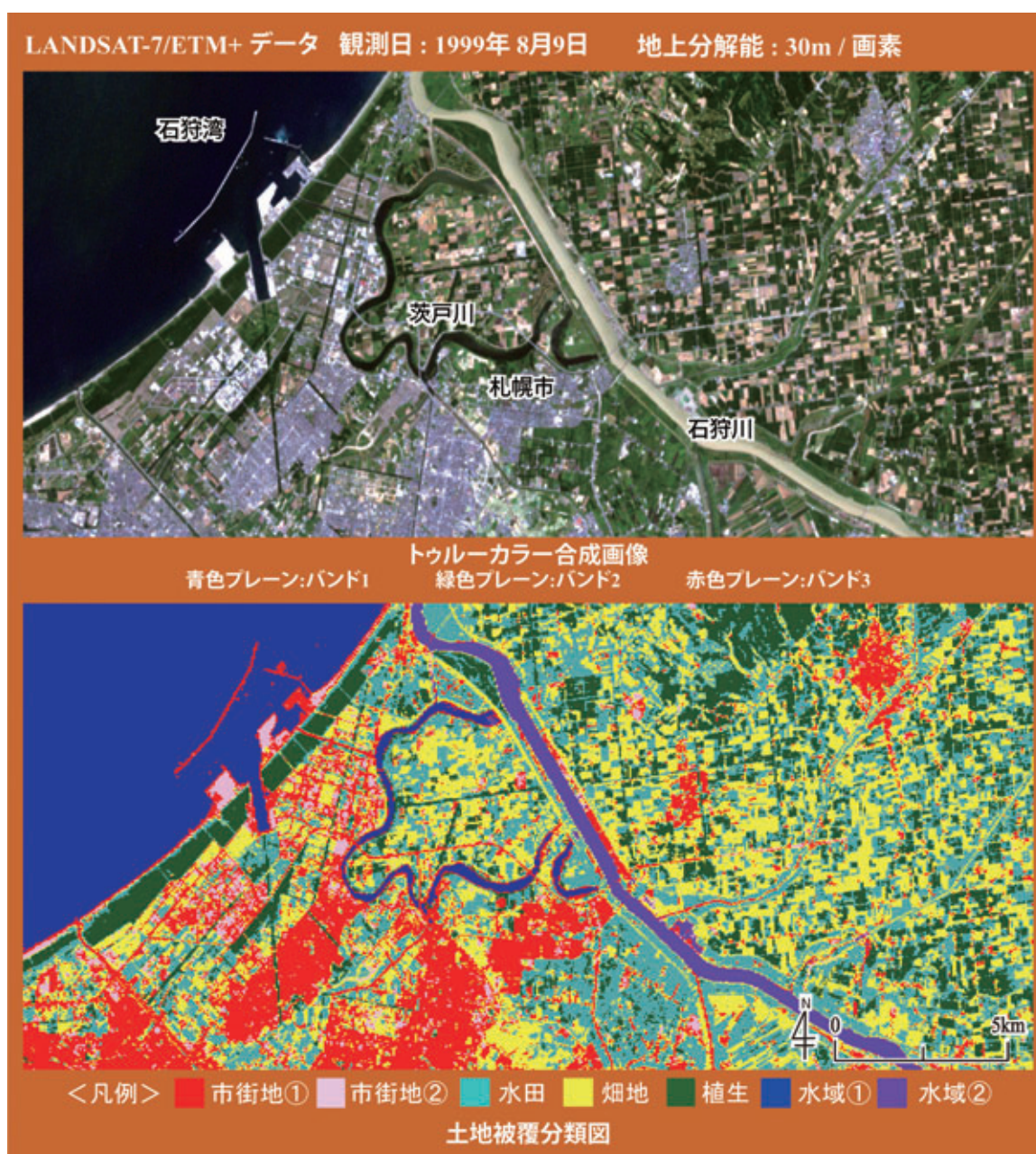


人工衛星LANDSATがとらえた「石狩川周辺」

データ収集：米国地質調査所（United States Geological Survey：USGS）

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

下図上段は、石狩川と茨戸川（ばらとかわ）周辺のトゥルーカラー合成画像です。バンド1（400～520nm）、バンド2（520～600nm）、バンド3（630～690nm）に対応する観測波長帯で観測されたETM+データをそれぞれ「青、緑、赤」色のプレーンに割り当てて表示したカラー合成画像です。石狩川と茨戸川は、石狩平野を流れる石狩川水系の一級河川です。茨戸川は、屈曲しながら西側に膨らんだ三日月のような形を呈しています。石狩川が直線状に改修された箇所（1931年）が画像からも確認できます。この改修時に、取り残された部分が旧石狩川となり、1965年に茨戸川と改称されました。下段は、上記3種類のバンドデータとバンド4（760～900nm）、バンド5（1550～1750nm）、バンド7（2080～2350nm）のデータを用いて土地被覆分類図を作成したものです。凡例に示した7種類の土地被覆項目を設定し、1つ1つの画素がどの土地被覆項目に属するかを判別（教師付き最尤法分類）し、画像化した結果です。石狩川左岸側（札幌市側）は市街化が進んでおり、右岸側は広域にわたって農用地が広がっていることが判ります。しかし、土地被覆分類図から土地利用状況そのものの分析をすることは難しく、利用目的別に要求される土地被覆分類の精度もおのずと異なることに注意を要します。リモートセンシングデータの種類が多様化し、高分解能化、多バンド化が進んでいますが、土地被覆を分類・分析する際には、今なお多くの検討課題があると言えます。



過去の「国土の姿を見る」画像集は次の URL でご覧いただけます。 http://www.jacic.or.jp/books/jacicjoho/kokudo/kokudo_index.html